

校長室だより

No. 10

平成30年6月8日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず  
加藤嘉一

## 第2回研究授業に臨む - 1年生活科「はなややさいをそだてよう」 -

今週6日(水)に本校第2回研究授業を行いました。今回は羽根小学校・柴田亜由美先生を招いて、生活科、生活単元学習(特別支援学級)の研修会です。研究授業は、1年1組渡邊桃子先生の学級でした。生活科の目標に、「身近な人々、社会及び自然との関わりで捉え、自分自身



【6月6日(水)1の1生活科研究授業】

や自分の生活について考え、表現することができるようにする」といったものがあります。そこで、渡邊先生は、アサガオ(自然)と自分との関わりとして「育て方」に着目し、自分の関わり方(生活)について、見方・考え方を更新する授業を組みました。1年生は、まだこの時期、自分の気付きや気になっていることを文字に表現することはできません。1年生の授業を成立させる難しいところです。渡邊先生は、以下のような手立てを考えました。

### 【渡邊先生の考えた手立て】

- 1 アサガオの育て方について、子供が見直しを図れるようにするためにどんな授業をする  
とよいか、花壇前で子供のアサガオの様子を見ながら、学年で作戦を立てていたこと
- 2 アサガオの観察・お世話から気付いたことを自覚化するために、事前に次のことを言葉  
に表させていたこと、そしてその子供の気付きをもとにして授業構想を考えたこと
  - ① 今までどんなお世話をしているか
  - ② 今心配なことはないか
- 3 前時まで、この先アサガオがどんな成長をしてほしいか、この先の見通しと思  
いや願いを高めるために、朝顔が見事に咲いた過去の写真を見せ、掲示したこと
- 4 自分たちの育てているアサガオの成長に満足している子供が多い状況であるため、育ち  
がうまくいっていないアサガオ(教師のもの)とうまく育てているものを用意し、比較の  
場をもち、育てるために必要なことを考えたい状況(しかけ)をつくったこと
- 5 自分のアサガオを目の前に置かせることで、話題となることに対して、イメージをも  
って話し合いに参加しやすい状況をつくったこと
- 6 育て方として留意すべき点を考えやすくするために、一人一人がどんな世話の工夫をし  
てきたか発表する場面を設定したこと
- 7 育て方として、心配なことをどうするとよいか、これまでの経験をもとに対策を考える  
場面をもったこと
- 8 話し合った学びを振り返らせ、その振り返りを生かすために、次時に専門家に聞いてみ  
たいことを考えさせたこと

子供の観察力と見方・考え方はすごいと思いました。誰がよく育っているか、そうでないかをきちんと見て知っていること。風雨が強かったときの経験からアサガオが弱るときはどのようなときか、どう対処するとよいか考えていること。毎日見に行って心配してあげることが対策につながるのだ、と現実主義的に考えること。文字に表現できなくても考えを表現する場をもったことで、大人がびっくりするような視点の考えを語りました。

研修会では、子供の困り感が授業の勢いにつながるのではないか、子供の考えた対策方法をアサガオの身になって考えさせ動作化を有効に使えなかったか等が議論されました。協議会の最後には、問題を自分事にする大切さや課題に戻って振り返ることの大切さ、新学習指導要領における生活科の目標・内容の考え方を助言していただき、研修を終えました。低学年の授業は、すべての授業の原点になります。今後も研修を深めます。



#### 《ちょっとコーヒーブレイク》

#### タンスに足の小指をぶつけること ー脳と足の感覚の誤差ー

恥ずかしい話、ここのところ家や学校のあちらこちらを歩くときに、よく足の小指をぶつけます。置かれているイス、机の脚、タンス。避けて歩いているつもりなのに、気付かずぶつけてしまいます。これがめっぽう痛い。

小指をぶつけるに限らず、ほんの数 cm の段差にも躓いてしまうこともあります。どこに躓いたのかと下をよく見ると、1 cm 位の驚くほど小さな段差に躓いており、愕然とします。自分は昨年 12 月始めに腰部挫傷をしてしまい、今でも腰痛、足の筋肉の違和感に悩まされている実態があるので、ここまで身体、運動能力の老化が進んだかと悲しくなってきました。

ところが、少し前にテレビを見ていたら、こうした躓きは若い人でも起こることが紹介されていました。なんと足をぶつけるのは、脳と足の感覚との誤差があるからだというのです。「年齢のせいではないんだ！」と、俄然勇気がわいて画面に食いつきました。番組では、町の人に協力してもらい、足元を隠し、地面に引いてある直線の上を歩いてもらう実験をしていました。すると、直線と足の置かれる位置が平均約 6 cm ずれていたのです。これなら、タンスに小指をぶつけます。産業技術総合研究所・小林吉之先生が、タンスに小指をぶつけるのは自分が思ったより 1 cm 外側を歩いているから、という研究結果を解説していました。

これ以外にも、電車で座っている人の前に立つときに、つま先が当たってしまうのも前後のズレ、段差に躓くのも上下のズレによるものだそうです。

自分の老化の件は棚に置き、子供が歩くときは危険なものから 10cm 以上は離れたところを歩くよう注意しようと思います。関心のある方は、以下を御覧あれ。

(<http://tmbi-joho.com/2018/05/05/chikochan-reg04sp/#i-4>)